

コンサート in なはーと
寺尾紗穂



もしもふたりが笑えるのなら
美しい時を謳えるのなら
欺く言葉に立ち向かえるよ
魔法みたいに

2026年
8月29日(土)

17:30 開場 / 18:00 開演(終演 20:00)

那覇芸術文化劇場

「なはーと」小スタジオ

那覇市久茂地 3-26-27

モノレール美栄橋駅・県庁前駅より各6分



チケット購入

4,000円 (学生 2,000円)

※当日券は+500円 全席自由

主催・問合せ：オフィスボーダー
tsborder623@gmail.com

コンサートinなはーと

寺尾紗穂

1981年東京生まれ。2007年ピアノ弾き語りアルバム「御身」でデビュー。大林宣彦監督の「転校生 さよならあなた」、安藤桃子監督の「0.5 ミリ」など主題歌の提供や、CM 楽曲制作 (KDDI、MUJI ほか)、新聞やウェブでの連載も多数。

オリジナルの発表と並行して、ライフワークとして土地に埋もれた古謡の発掘およびリアレンジしての発信を行う。『ミュージック・マガジン』誌では「戦前音楽探訪」の連載を6年間担当した。全国各地のアートプロジェクト、東東京エリアの「隅田川怒涛」(2021)、高知・須崎の「現代地方譚」(2022)、横須賀の「SENSE ISLAND / LAND」(2024)などに招聘されての、リサーチを経ての表現活動のほか、モンゴルの国民祭ナーダムへの出演や、ホンジュラスでの国立管弦楽団との共演、ニュージーランドでの公演など世界での演奏も増えている。2024年にはアーツ前橋にて荒井良二とライブ ペインティングで共演。国立新美術館で開催された「荒川ナッシュ 医 ペインティングス・アー・ポップスターズ」展では、丸木俊の絵画に寄せた楽曲「ミクロネシア三景」を書き下ろし、展示と呼応するインスタレーションとして発表。2025年は高木正勝のアルバム『うたの時間』に作詞、編曲、演奏で参加したほか、「アジアの汗」から歌い始めたフジロックの「ORANGE ECHO」ステージでの演奏も話題になった。

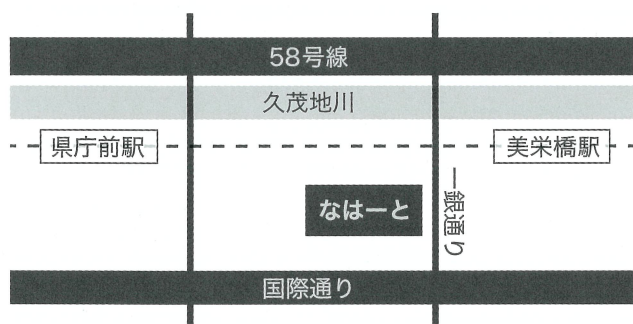
長年「ビッグ・イシュー」支援の音楽イベント「りりんふえす」を青山・梅窓院で主催。11回目より山谷・玉姫公園にて開催し、2026年に13回目を迎えた。また女工たちを描いた「女の子たち 紡ぐと織る」、兵器製造に動員された女学生を描く「女の子たち風船爆弾をつくる」など、作家小林エリカとタッグを組み、歴史に埋もれた女性たちの声を、当時の音楽と共に甦らせる音楽朗読劇を制作。

NHK ドキュメンタリー「Dear にっぽん」のテーマ曲に「魔法みたいに」が選ばれ、教科書『高校生の音楽』にも同曲が掲載されている。あだち麗三郎、伊賀航と共に3ピースバンド「冬にわかれて」でも活動を続ける。音楽家や詩人、編集者などの知人に声をかけ自身が編集するエッセイ集『音楽のまわり』、『わたしの反抗期』など出版も手がける。書籍最新刊は『戦前音楽探訪』(ミュージック・マガジン社)。

音楽アルバム最新作は「わたしの好きな労働歌」。前作「余白のメロディ」(2022)、「しゅー・しゃいん」(2024)、は『ミュージック・マガジン』の年間ベスト(ロック/日本部門)の10枚に選出された。

那覇芸術文化劇場

「なはーと」小スタジオ



那覇市久茂地 3-26-27
モノレール美栄橋駅・県庁前駅より各6分



Photo by 川島悠輝